



TILE BEAUTY IN EVERYDAY CRAFT.

タイルは、日常を彩る「用の美」

工芸における日本の美意識を語る上で欠かすことのできない「用の美」という言葉は、民藝運動を提唱した美術評論家・思想家の柳宗悦により主張されてきた。工業化が進み始めていた日本において、手仕事の工芸品に着目し、鑑賞品とは異なる実用品としての美しさを伝えるものだった。用の美は、物そのものに宿る美しさに加え、人が物を用いることの美しさも表現。日常の暮らしの中で、使う人によって育まれる美意識であり、また日常で長く使い続けることが大

切で、頑丈であることも用の美ならではの特徴とされてきた。言うまでもなく、タイルは建物の外壁や内装に使われる陶磁器製の建築材料で、工芸品のように「使う」という概念はないが、住まいにおいては日常生活に密接して「使われている」素材。住む人と長く暮らしを共にし、変わらない美しさを保つ頑丈さも備えている。タイルは、日常を彩る用の美。家族に生まれ、家族の幸せと共に、美しく使われ続ける。